

第2 地域の特性と位置づけ

1 地域の優れた特性

(1) 地域共通の特性

ア 地勢の対照的夫婦島

種子島は細長くて低く、屋久島は丸くて高く対照的島ですが、種子島全体と屋久島の縁辺部の地質は同じ熊毛層群で、海底部では地勢上の夫婦島です。

イ 気候温暖、豊富な動植物資源

気候は温帯の南端部に属し、亜熱帯と接する限界地であり、動植物の北限、南限として有名な渡瀬ラインが地域近くの南方海上にあって、動植物資源の宝庫と学術研究上注目されています。

また、黒潮と薩摩・大隅両半島から南下する冷水が混合する熊毛海域は、多種多様な漁業資源に恵まれています。

ウ 歴史上に果たした重要な役割

種子島、屋久島は記紀（古事記、日本書紀）に登場するのみならず、種子島については、鉄砲伝来、フランシスコ・ザビエルの寄港、度重なる漂着船等との交流、また屋久島については、鑑真、シドッチの寄港など海のシルクロードとして、歴史的に重要な役割を果たしてきています。

エ 鹿児島市に近い大きな離島、改善される交通条件

県下28の有人離島の中で、種子島、屋久島は南九州の中核都市である県都鹿児島市への定期便による時間距離が最も短い便利な島で、奄美大島に次いでそれぞれ2、3番目に大きい島です。それだけに、両島の空港、港湾、道路の整備は年々進みつつあります。

航路については、高速船ジェットfoilが平成元年7月に初めて就航して以来、それぞれ現在6隻が運航しており、利便性が格段に向上しました。

小型ジェット機の運航が可能な種子島空港は、平成28年3月16日に開港10年を迎えました。近年は、ジェットチャーター便による種子島・屋久島の周遊ツアーが好調で、今後も、時間短縮効果や輸送能力の向上による交流人口増加や産業振興への可能性への期待が高まっています。

オ 過疎化の中で魅力が光る土地柄

過疎化が進み、一次産業従事者の高齢化、後継者不足が叫ばれている反面、恵まれた自然条件や人情味豊かな風土等にひかれて県内外から移住する人もみられます。

種子島では、サーフィンのポイントも多く、若者への人気が高まっています。また、同人誌、地域情報誌の発行をはじめ、地道な地域文化活動やスポーツ活動が展開されています。

カ NHK朝の連続テレビドラマ「まんてん」の放映

平成13年10月から平成14年3月まで種子島、屋久島を舞台としたNHK朝の連続テレビドラマ「まんてん」が放映されました。

「まんてん」のロケは屋久島では吉田集落、安房地区を中心に島の数カ所で行われ、種子島では種子島宇宙センターで行われました。

このドラマ放映で種子島、屋久島を日本全国に向けての大きなPRになり、他の県内観光地の入り込み客数が伸び悩んでいる中、種子島、屋久島への入り込み客数が増加しました。

(2) 種子島の特性

ア わが国で唯一の実用衛星の射場がある種子島宇宙センター

日本の宇宙への玄関、それが種子島です。昭和50年9月、わが国最初の技術試験衛星「きく」が、宇宙開発事業団種子島宇宙センターから打ち上げられました。ここは世界有数の景観のよいわが国唯一の実用衛星の打上げ施設です。

総面積9.7km²、H-Iロケットに次いで、平成6年2月からはH-IIロケット、平成8年8月からはJ-Iロケットが打ち上げられました。平成13年8月から打ち上げられているH-IIAロケットは、平成28年2月17日まで29機の打ち上げに成功しています。

また、平成21年9月からは、H-IIBロケットも打ち上げられ、平成27年8月19日までに5機の打ち上げに成功しています。

イ 歴史を変えた鉄砲伝来

種子島の名が全国に知られたのは、いうまでもなく鉄砲伝来です。天文12年(1543年)8月25日、島の南端門倉岬に漂着した明国船に乗っていたポルトガル

人によってもたらされました。第14代島主種子島時堯は2丁を2千両で購入し、刀鍛冶の八板金兵衛が苦勞の末、国産銃を完成させました。これが、やがてわが国の戦国時代の歴史展開に大きな影響を及ぼしました。

種子島で国産銃の完成をみることができたのは、良質の砂鉄と、高熱が得られる堅い材質の樹木があり、刀鍛冶の技術が発達していたからです。しかし、八板金兵衛の鉄砲の製造には、最後の段階の銃身の底を塞ぐネジがまだ日本に存在していなかったためうまくいきませんでした。それをポルトガル人から伝授してもらうために、娘若狭がポルトガル人に嫁いだという話が語り継がれています。

ウ わが国最初の西洋式 鋏はさみの導入と伝統工芸品「種子鋏たねばさみ」

鉄砲と同時に中間支点をもつ西洋式の鋏も伝わったと言われています。西洋鋏が初めて導入されたわけで、特産の種子鋏は、今も伝統工芸品として根強い人気を保っています。

また、平成24年3月に「西之表の種子鋏製作技術」は、国の「記録作成等の措置を講ずるべき無形の民俗文化財」に選択されました。

エ 日本の水浴場88選に選定された浦田海水浴場

環境省が、水質が良好で快適な水浴場を広く普及することを目的とした「日本の水浴場88選」（平成13年度選定）に、西之表市の浦田海水浴場が選定されました。

・環境省選定評：鉄砲伝来で有名な種子島の北部に位置し、自然の入江になっており、白い砂浜と青い海、緑あふれる森に囲まれた自然環境に優れた海水浴場で、水質も過去3年間、常時AA判定を維持している。
また、ウミガメの産卵場所でもあり、自然保護の啓発活動も行っている。

オ 古市家住宅

中種子町坂井にある古市家住宅は、1846年に建てられたとされており、最古の類に属する住宅で、種子島を代表する建築物です。

屋敷の環境も良く、平成6年に国の重要文化財に指定されています。

カ 広田遺跡（わが国最古の文字）

南種子町の広田で、1955年台風22号の波浪により、砂丘の一部が崩壊した際に発見されました。調査の結果、広田砂丘の南端から、90箇所の埋葬遺構、157体の人骨、44,000点以上の貝製装身具が出土し、3世紀から7世紀ごろまでの集団墓地であることが分かりました。

出土した貝製装身具の中には、この遺跡でしか発見されていない独特のものがあり、また、これほど多彩で多量の貝製装身具が出土した遺跡は日本列島では他に例がなく、昭和30年代の発掘で発見された「貝製装身具」は、2006年6月9日に国の重要文化財に指定されました。

さらに2008年3月28日に「広田遺跡」が、2009年7月10日には2005～2006年の調査で新たに発見された「広田遺跡出土品」が、国の重要文化財に指定されています。

この遺跡から出土した「山」と刻まれた貝符は、わが国で使用された最古の漢字ではないかとの説もあります。現物は鹿児島歴史資料センター黎明館に所蔵され、レプリカは西之表市の種子島開発総合センターで見ることができます。

なお、2015年3月1日には南種子町が広田地区に「広田遺跡ミュージアム・国史跡広田公園」を開館しました。国重要文化財の「広田遺跡出土品」の一部の他、集団墓地や遺跡に関する展示施設と実際の墓地跡公園が整備されており、遥か1700年前の弥生から古代の文化を体感できます。

キ わが国への稲作渡来初期の地

島の北端部の浦田海岸にある浦田神社には、うがやふきあえずのみこと 沟池草葺不合尊がその上から「白ごめ」の種子をまいたといわれる御種子蒔石と呼ばれる巨石が祀られており、わが国に初めて稲作が伝わったところであるとする説があります。

また、島の南端部近くの宝満神社の神田では、古代から稲の原種といわれる「赤ごめ」が栽培されてきました。毎年4月上旬には、豊作を祈願し、神田で栽培された赤米を儀礼に用い、舟田で田植舞を奉納する農耕行事が行われています。

宝満神社の農耕行事は、2016年3月2日に「種子島宝満神社の御田植祭」として国の重要無形民俗文化財に指定されました。

ク わが国最初の甘しょ栽培

第19代島主種子島久基が元禄11年（1698年）に琉球王から甘しょ1籠を贈られ、大瀬休左衛門に命じて栽培させたのが、わが国初の甘しょ栽培です。県本土の指宿市山川で栽培される7年前のことです。

ケ 日本一早いコシヒカリ，新茶

南種子町茎永地区を中心として，日本一の早場米の産地が形成され，例年7月のコシヒカリの出発式がニュースになります。

また，種子島は最近，走り新茶の里としても実績を上げつつあります。

コ 高性能を誇る製糖工場

種子島は，さとうきびの産地としては最北の地です。中種子町に立地している新光糖業株式会社の中種子工場は，1工場当り1日1,600tと県内最大の処理能力を有します。

サ 公益財団法人 種子島農業公社の天皇杯受賞

種子島農業公社は，平成7年，農業従事者の高齢化・婦女子化などによる地域農業の衰退傾向に歯止めをかけ，「将来にわたって農業を地域の基幹産業として発展させていく」という行政，JAの共通認識のもと設立されました。

当公社は，地域の農作業委託希望を一手に管理し，公社直営と再委託の2面の受託体制で，大規模農家や高齢兼業農家の営農を支援し，地域農業の存続発展に寄与しています。平成14年には受託作業種類や受託面積の拡大が図られ，早期水稲，かんしょ，サトウキビを中心に1,919.3ha（設立時の2.2倍）に拡大し，中種子町，南種子町農業者全体の75%以上が受委託の恩恵を受けています。

これらの功績について，同公社は平成15年11月23日に開催された第42回農林水産祭において，農産部門の天皇杯を受賞しました。熊毛地域では天皇杯受賞は，昭和55年の屋久町麦生集落（村づくり部門）に継ぐ2回目の受賞です。

シ 横綱・大関を輩出した相撲の里

種子島は古くから相撲の盛んな土地柄で，第25代横綱西ノ海（西之表市下西出身）や松ヶ根親方（元大関若島津。中種子町増田出身）をはじめ，多くの角界人を輩出しています。

(3) 屋久島の特性

ア わが国初めての世界自然遺産登録地

屋久島は，九州の最高峰宮之浦岳を擁し，樹齢数千年に及ぶヤクスギの世界的に貴重な天然林があります。低地の亜熱帯植物帯から山頂付近の亜高山帯植物群落まで植生の垂直分布が顕著にみられ，多くの固有植物，北限・南限植物が自生しています。

優れて普遍的な価値をもつ人類の遺産として，その貴重な自然が世界的に評価され，平成5年12月11日，コロンビアで開催された第17回世界遺産委員会で，屋久島は，わが国初の世界遺産条約に基づく自然遺産として登録されました。

（33ページ参照）

イ 世界最古・最大級の縄文杉

標高約1,300mの原生林にある縄文杉は、昭和41年に発見され、2年後、九州大学工学部の真鍋大覚助教授（当時）により樹齢7,200年と推定されました。

平成元年～2年に環境庁（現環境省）が実施した巨木調査において、縄文杉は根回り16.1m、全国第20位となっています。屋久島のシンボリック的存在で、毎年約9万人もの登山者が訪れます。

なお、平成4年度の屋久杉自然館の調査によると樹高25.3m、胸高周囲16.4mと計測されています。

ウ 10の日本百選に輝く国立公園

山岳、原生林、渓谷など変化に富んだ山紫水明の雄大で豊かな自然は、霧島屋久国立公園に指定されており、全国的な景勝地、名所として注目されています。なお、平成24年3月16日、霧島屋久国立公園が再編され、新たに屋久島国立公園が誕生しました。

最近の日本百選をみても、次の10件が選定されています。

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| ○ 日本の滝百選（1990 大川の滝） | 緑の文明学会, グリーンルネッサンス,
緑の地球防衛基金選定 |
| ○ 名水百選
（1985 屋久島宮之浦岳流水） | 環境省選定 |
| ○ 森林浴の森百選（1986 屋久杉林） | 林野庁, 緑の文明学会, 緑の文明総合
研究所選定 |
| ○ 日本の自然百選
（1983 屋久島の自然林） | 朝日新聞社, (財)森林文化協会 |
| ○ 新・日本の名木百選（1990 縄文杉） | 読売新聞選定 |
| ○ 水源の森百選
（1995 白谷雲水峡とその一帯） | 林野庁選定 |
| ○ 日本の音風景百選
（1996 千頭川の溪流とトロッコ） | 環境省選定 |
| ○ かおり風景百選
（2001 屋久島の照葉樹林と鯖節） | 環境省選定 |
| ○ 森の巨人たち百選
（2000 縄文杉, 弥生杉, 紀元杉） | 林野庁 |
| ○ 日本の地質百選（2007 屋久島） | 日本の地質百選選定委員会 |

エ 日本有数のウミガメ産卵上陸地

世界的に絶滅の危機にあるといわれる貴重な野生生物であるウミガメのうち、わが国には5月から8月にかけて、アカウミガメとアオウミガメが産卵のため上陸します。

なかでも、屋久島の永田のいなか浜・前浜は、日本有数のアカウミガメの上陸が見られる砂浜で、このうち永田浜は、平成13年度に1,900頭、14年度は2,658頭（旧上屋久町調べ）のウミガメの上陸があったことが評価されて、平成17年11月にラムサール条約の登録湿地となりました。

また、屋久島の栗生浜や一湊海岸のほか種子島の長浜海岸や浦田海岸など多くの砂浜に上陸がみられます。

オ 全国有数のぼんかん・たんかんの主産地

台湾で教師をしていた後の下屋久村長黒葛原兼成氏が、大正13年に台湾からはじめて持ち込んだぼんかんと、昭和10年代の前半、ぼんかんの苗木に混ざって導入されたたんかんは、屋久島の気候・土壌に適し、今や屋久島を代表する果樹の両横綱で、質・量ともに日本有数の主産地となっています。

また、たんかんは、平成19年5月24日に「かごしまブランド」として指定されました。

カ 天皇杯受賞の麦生集落の村づくり

屋久島町麦生集落は、離島、急傾斜地という不利な条件の下にありながら、集落「総親和」を合言葉に、幾多の困難を克服し、一人の落ちこぼれも出さない村づくりを進めてきたことが認められ、昭和55年度全国農林水産祭むらづくり部門において天皇杯受賞の榮譽に輝きました。平成2年11月23日は、受賞10周年の記念行事が開催され、すべて手づくりの集落のシンボルマーク、麦生の歌、振付けあでやかな麦生音頭が披露され、思い新たに更なる村づくりを誓い合いました。

キ 高級品から日用品まで用と美の屋久杉加工品

屋久島では、樹齢1,000年未満の杉は小杉といって、屋久杉とは呼ばれません。

屋久杉はほとんど国有林内にあり、立木の伐採が自然保護の立場から厳しいことから、屋久島の代表的特産品である屋久杉加工品の材となるのは、土埋木、枯木が中心であり、資源の枯渇が心配されています。ともあれ、高級な建材、家具、工芸品から日用の小物まで多種多様な製品加工が行われ、その重厚な木目の美しさ、独特のつや、色あいが見る人の目を魅了する不思議な力をもっています。

ク 活かされる豊富で良質の水

屋久島はひと月に35日雨が降るといわれるほど降水量が多く、山岳地帯の年間降水量は、8,000~10,000mmにも達します。昭和60年3月、環境庁（現環境省）の名水百選にも選定されたこの豊富で良質の水の活用が重要となっています。

昭和27年に立地した屋久島電工株式会社は、現在、水力発電所3カ所（認可出力58,500kw）を持ち、電力を多消費する炭化けい素などの製造に用いるとともに一般家庭用の電力供給を行っています。

花崗岩質の山岳から流れ落ち、岩間に湧き出る水はまろやかな軟水であることから、南日本酪農協同株式会社屋久島工場では、これを「縄文水」として売り出し、県内外で好評を博しています。

山口県の酒造会社は、この縄文水だけを使って清酒「屋久島」を醸造し、全国新酒鑑評会で金賞を受賞しました。

降水量は多いですが、降った雨は急峻な岩山を一気に流れ落ちて海に注ぐため、南部の農業地帯では水不足がみられます。そこで平成元年度から千尋滝の滝つぼから花崗岩を500mくり抜いてトンネルを通し、336haの畑地かんがい、水田の用水として利用する県営事業が行われました。

ケ 古書が推挙する日本一の硯材すずりざい

江戸時代（文政12年）に徳島の橋南たちばななんけい 谿ほくそうていが著した北窓瑣談後編卷之四に、「硯材は薩州屋久島石を第一とすべし。石密にして、しかも墨よくおり、又墨澄むことなし。その次は山城の石王寺、若狭のうぐいす鳳足、甲斐の飴畑、土佐の青石、美作の高田など硯石の上品なり云々」とあるように、古くから屋久島産の硯は貴重な存在でした。こうした史実にも刺激され、近年その製品化が復活しつつあります。

コ 県下唯一の家庭薬の製薬工場

屋久島町楠川にある株式会社老舗恵命堂の屋久島工場は、県内ただ一つの全国向け家庭薬の製薬工場です。同社は昭和8年本県初の県外からの進出工場として鹿児島市に立地し、屋久島への進出は昭和47年からです。製品は、胃腸薬恵命我神散一つで平成2年には細粒工場も建設されました。主な原料は熊本地域特産のガジュツです。

サ スポーツで日本の覇者2人を生んだ栗生集落

屋久島町栗生集落の出身者から日本一のスポーツ選手2人が昭和の時代に誕生しました。

まつだかつじ
松田一二氏は、昭和7年全日本剣道大会で優勝し、昭和42年には剣道教士の称号を与えられました。

山崎浩子氏は、両親が栗生出身で、高校時代から新体操に打ち込み、日本女子体育短期大学に進み、新体操の女王として活躍し、昭和59年のロスアンゼルスオリンピックで第8位入賞を飾りました。

シ CO2フリーの島づくり

屋久島では、ほぼ全ての電力が、発電時にCO2を発生しない水力発電で賄われています。このような地域は他になく、これからの低炭素社会づくりに向けてモデルになりうる地域特性をもっています。

県では、このような特性を活かし、屋久島においてCO2排出量の削減を促進し、CO2の排出が実質的に抑制された先進的な地域づくりを目指しています。

2 主要指標からみた熊毛地域

熊毛地域は、全国の有人離島（本土との架橋離島を除く）の中で第4、第5番目に大きい屋久島・種子島を中心とする島々からなり、県土の10.8%の面積を占めています。

地域の人口は、昭和35年国勢調査の88,542人をピークに減少を続け、平成26年住民基本台帳年報では44,212人で、県人口の2.6%を占めています。

1市3町ともに過疎化が進む中で高齢化も進みつつあり、高齢化率は32.7%（平成25年現在）と県平均の28.3%を4.4ポイント上回っています。

地域の市町村内総生産額（平成24年度）は1,344億円で、県全体の2.5%を占めています。

地域の基幹産業は第一次産業で、就業者構成比（平成24年度）で24.4%（県10.1%）、総生産額構成比で6.8%（県3.5%）を占めています。

第二次産業は、就業者構成比で12.9%（県19.3%）、総生産額構成比で14.3%（県17.6%）を占めています。

また、製造業の集積も県全体に比べて低く、製造品出荷額等の県内シェアは1.5%になっています。

第三次産業は、就業者構成比で62.7%（県70.7%）、総生産額構成比で78.2%（県78.2%）を占める最大の産業ですが、就業者構成比は県平均よりは低い構成比となっています。

住民1人当たりの市町村民所得（平成24年度）は、2,077千円で県民所得（2,387千円）の87.0%となっています。

熊毛地域は外海離島でしかも台風常襲地帯であること、高度医療、専門医療の多くを島外の医療機関に依存していること、高等教育機関がないことなどのハンディキャップを負っており、本土との所得格差の是正や地域特性を活かした地域づくりが大きな課題となっています。

しかしながら一方で、①温暖な気候に恵まれ、②県本土とのアクセスが比較的良く、歴史的に培われた人情味豊かな風土を持っていることに加えて、④関係者の熱心な取り組みなどにより、地域発展の大きな可能性を有しています。

第一次産業の中には、さとうきび、さつまいも、葉たばこ、米、ばれいしょ、タンカン、ポンカン、肉用牛、牛乳等の農畜産物、あざみ、つわぶき、浜ぜり、パルプ・チップ用材等の林産物、クルマエビ、トビウオ、アオリイカ（ミズイカ）、イセエビ、キビナゴ、トコブシ（ナガラメ）、アサヒガニ等の水産物などの特産品目を有しており、これら地域特有の資源の更なる活用とともに、生産、流通加工体制の確立が課題となっています。

商工業は、小規模経営が中心で集積度は極めて低いですが、地域の特性を活かした製品の開発や特色ある農林水産物を生かした食品加工業、宇宙開発関連施設の立地を生かした宇宙開発関連企業、屋久島の豊かな水資源を活用した企業の立地等が期待されています。

熊毛地域は、世界自然遺産としての屋久島、ラムサール条約の登録湿地となった世界有数のウミガメの産卵上陸地の永田浜、種子島における宇宙開発関連施設や鉄砲伝来の史跡など、他地域に誇れる「本物」の素材に恵まれています。

「熊毛地域将来ビジョン」等に基づき、種子島、屋久島の相互の連携を強化し、自然との共生にも配慮しながら、個性ある自然や魅力ある工芸品や食などの特色のある観光資源を活かし、農林漁業の体験型観光やエコ・ツーリズム等の新たな旅行形態への取組等や積極的な誘客宣伝活動を進めることにより、個性豊かで質の高いリゾート観光地として大きく発展していくことが期待されています。

主要指標からみた熊毛地域一覽

項 目	単 位	種子島地区	屋久島地区	熊毛地域	鹿児島県	熊毛／県 (%)	備 考
〔自然条件〕 種子島地区は馬毛島、屋久島地区は口永良部を含む。							
島しょ数（面積1km ² 以上の島）	島	2	2	4	32	12.5	平成27年国土地理院全国都道府県市区町村別面積調
有人島数	島	2	2	4	26	15.4	本土との架橋離島を除く
総面積	km ²	453.20	540.48	993.69	9,186.94	10.8	平成27年国土地理院全国都道府県市区町村別面積調
年間平均気温	℃	19.6	19.4	-	(鹿児島市) 18.6	-	平成26年鹿児島地方気象台（本書p.12, p.14）
年間降水量	mm	3,037.0	5,593.0	-	(鹿児島市) 2,834.0	-	平成26年鹿児島地方気象台（本書p.12, p.14）
〔人口〕							
総人口	人	30,897	13,315	44,212	1,691,427	2.6	平成26年住民基本台帳年報（本書p.54）
世帯数	世帯	15,584	6,813	22,397	804,220	2.8	〃（本書p.59）
1世帯当たり人口	人	2.0	2.0	2.0	2.1	-	
人口密度	人／km ²	68.2	24.6	44.5	184.1	-	
年少人口割合（15歳未満）	%	13.2	14.4	13.6	13.6	-	平成26年住民基本台帳年報（本書p.55）
生産年齢人口割合（15～64歳）	%	52.9	55.4	53.6	58.1	-	〃
老年人口割合（65歳以上）	%	33.8	30.2	32.7	28.3	-	〃
出生率	人口千対	7.4	8.4	7.7	8.7	-	平成25年衛生統計年報（本書p.58）
死亡率	人口千対	15.4	15.7	15.5	12.9	-	〃
〔経済〕							
郡（県）民所得	百万円	63,564	29,176	92,739	4,033,798	2.3	平成24年度市町村民所得推計報告書（本書p.60）
1人当り郡（県）民所得	千円	2,038	2,168	2,077	2,387	87.0	〃
郡（県）内総生産	百万円	92,423	41,984	134,407	5,347,166	2.5	〃（本書p.66）
（内訳実数）第一次産業	百万円	8,031	1,113	9,144	186,843	4.9	〃
第二次産業	百万円	10,708	8,496	19,204	938,990	2.0	〃
第三次産業	百万円	73,030	32,077	105,107	4,183,443	2.5	〃
（構成比）第一次産業	%	8.7	2.7	6.8	3.5	-	〃
第二次産業	%	11.6	20.2	14.3	17.6	-	〃
第三次産業	%	79.0	76.4	78.2	78.2	-	〃
就業者総数	人	16,530	6,989	23,519	790,292	3.0	〃（本書p.70）
（内訳実数）第一次産業	人	4,538	811	5,349	74,040	7.2	〃
第二次産業	人	1,998	1,007	3,005	149,450	2.0	〃
第三次産業	人	9,994	5,171	15,165	566,802	2.7	〃
（構成比）第一次産業	%	27.5	11.6	22.7	9.4	-	〃
第二次産業	%	12.1	14.4	12.8	18.9	-	〃
第三次産業	%	60.5	74.0	64.5	71.7	-	〃

項目	単位	種子島地区	屋久島地区	熊毛地域	鹿児島県	熊毛/県 (%)	備考
〔農業〕							
農家戸数	戸	3,891	797	4,688	78,102	6.0	2010年世界農林業センサス(本書p.115)
耕地面積	ha	8,760	978	9,738	120,800	8.1	農林水産省「作物統計面積調査」(本書p.3)
農業従事者数	人	4,720	582	5,302	64,137	8.3	2010年世界農林業センサス(本書p.115)
農業産算出額	百万円	14,122	1,478	15,600	—	—	平成26年熊毛支庁農政普及課(本書p.119)
(内訳)米	百万円	760	23	782	—	—	〃
さつまいも(青果用除く)	百万円	1,046	22	1,067	—	—	〃
野菜	百万円	2,970	181	3,151	—	—	〃
(青果用さつまいも)	百万円	1,964	5	1,969	—	—	〃
(ばれいしょ)	百万円	437	146	583	—	—	〃
果樹	百万円	111	573	684	—	—	〃
花き・花木	百万円	451	59	510	—	—	〃
工芸作物	百万円	3,228	336	3,563	—	—	〃
(さとうきび)	百万円	2,534	0	2,534	—	—	〃
畜産	百万円	5,534	285	5,820	—	—	〃
〔土地改良〕							
畑地かんがい整備率	%	23.4	74.8	32.3	49.5	—	平成27年3月31日現在県農地整備課(本書p.126)
ほ場整備率	%	53.6	46.6	53.2	68.0	—	〃
農道整備率	%	66.2	80.7	68.8	60.6	—	〃
〔林業〕							
林野面積	ha	24,194	48,521	72,714	587,315	12.4	平成27年県森林・林業統計(本書p.3,p.128)
林野率	%	53.4	89.8	73.2	63.9	—	平成27年県森林・林業統計(本書p.3)
国有林面積	ha	3,336	38,298	41,634	152,287	27.3	平成27年県森林・林業統計(本書p.3,p.128)
民有林面積	ha	20,857	10,222	31,080	435,028	7.1	〃
人工林面積	ha	7,334	3,083	10,418	213,448	4.9	〃
民有林に占める人工林率	%	35.2	30.2	33.5	49.1	—	〃
林産物生産額	百万円	348	301	649	—	—	平成26年特用林産物生産実態調査及び平成25年度市町村別素材生産量調査(本書p.131)
〔水産業〕							
漁港数	港	19	8	27	139	19.4	支庁建設課,屋久島事務所(本書p.139)
漁業経営体総数(海面・養殖)	体	339	91	430	3,807	11.3	2013年漁業センサス(本書p.138)
動力漁船総隻数	隻	535	216	756	9,776	7.7	漁船統計表(平成26年12月31日現在)
うち5t未満	隻	488	171	659	8,335	7.9	〃
海面漁業漁獲高	百万円	773	362	1,135	—	—	平成26年熊毛支庁林務水産課

項目	単位	種子島地区	屋久島地区	熊毛地域	鹿児島県	熊毛／県 (%)	備考
〔商工業〕							
商店数	店	413	196	609	16,867	3.61	平成26年商業統計（本書p.150）
年間商品販売額	百万円	33,908	14,292	48,200	3,710,568	1.30	〃（本書p.151）
製造品出荷額等	百万円	8,637	10,514	19,151	1,802,491	1.1	平成25年度鹿児島県の工業統計（p.142）
〔観光〕							
延べ宿泊者数	千人	186	424	610	7,534	8.1	平成26年観光統計（本書p.155）
延べ日帰り客数	千人	97	131	227	13,332	1.7	〃
宿泊施設収容能力	人	3,006	4,146	7,152	-	-	平成26年1月1日現在 県観光課（本書p.155）
〔生活指標〕							
生活保護率	‰	13.9	14.3	14.0	19.5	-	平成26年度月平均熊毛支庁地域保健福祉課（本書p.80）
老人クラブ加入率	%	31.5	22.2	28.7	18.2	-	平成27年3月31日現在熊毛支庁地域保健福祉課（本書p.81）
医師1人当たりの人口	人	1,040	841	971	416	-	平成24年衛生統計等（本書p.77）
歯科医師1人当たりの人口	人	1,949	2,243	2,029	1,346	-	〃
し尿水洗化率	%	73.7	62.7	70.4	86.5	-	平成25年度末現在西之表保健所，屋久島町（本書p.99）
ごみ処理率	%	100	100	100	100	-	〃
水道普及率	%	98.8	99.6	99.0	97.5	-	〃（本書p.100）
高校等進学率	%	97.8	98.3	97.9	98.4	-	平成27年3月公立学校卒業生（学校基本調査）
大学等進学率	%	23.6	41.7	29.1	42.2	-	平成27年3月公立学校卒業生（学校基本調査）
〔行財政〕							
市町村数	市町村	3	1	4	43	9.3	平成19年10月1日以降
有権者数	人	25,396	10,778	36,174	1,370,142	2.6	平成27年12月2日現在県選挙管理委員会（本書p.59）
財政規模（歳入）	百万円	22,359	10,169	32,528	894,753	3.6	平成26年度市町村決算状況（本書p.199）
財政規模（歳出）	百万円	21,940	9,817	31,757	862,883	3.7	〃
財政力指数	指数	0.24	0.26	0.25	0.27	-	〃（種子島及び熊毛地域は単純平均）
経常収支比率	%	93.8	93.7	93.8	90.8	-	〃（種子島及び熊毛地域は単純平均）